

## 説教「乏しい中から」マルコ 12：41～44

マルコによる福音書12章は、ある印象的なシーンを今に伝えています。神殿の中に設置されていた賽銭箱に、人々がお金を入れていました。大勢の金持ちがたくさん入れていた中で、一人の貧しいやもめはレプトン銅貨2枚を入れました。主イエスは、それをじっと見ておられました。なお、レプトン銅貨は当時の最小貨幣でした。

主イエスは、弟子たちを「呼び寄せて」話しかけられたといます。「呼び寄せる」とは、招くということです。弟子たちは大切なメッセージを聞くために主イエスに呼び寄せられ、招かれたのです。今ここに集う私たちも同じように主に呼び寄せられ、招かれた者として、その教えに聞いていきたいと思えます。

さて、主イエスはこう言われました。「この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた」。だれが考えても疑問に思ってしまう。大勢の金持ちがたくさん入れたのに対して、やもめは最小貨幣2枚を入れたのですから。主イエスは、直後にこう言われています。「皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れた」のだと。

主イエスはここで、賽銭箱に入れた金額の多寡に注目して語られているのではないことは言うまでもありません。額の多さからすれば、大勢の金持ちの方が貧しいやもめよりもはるかに多くを入れたであろうことは明らかです。では、ポイントは何か、それは、「有り余る中から」金を入れた大勢の金持ちと「乏しい中から」入れた貧しいやもめの、各々の心のあり様にあるのではないのかと思えます。自分たちには何の欠けもなく、社会的に立派な人間であるとの自負からくる「有り余る中から」という金持ちの傲慢な思いと、何のいさおしもなく欠けある人間であるゆえに、自分自身を差し出すような思いでささげるほかはないとして「乏しい中から」金を入れたであろうやもめの謙虚な思い。主イエスは、この両者の違いを指摘されているのだと思えます。「心の貧しい人々は幸いである」と言われた主の言葉が思い起こされてきます。

これを念頭において、さらにみていきます。やもめは、「自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れた」といいます。注目すべきは、「すべて」「全部」というところにあるかと思えます。一方の大勢の豊かな人たちは、すべてではありませんでした。ここにも大きな違いがあることがわかります。

ただし、ここで誤解してはならないことがあります。「生活費を全部入れた」ということから、私たちも同じようにしなければと、文字どおり誤解して受け取ってしまうことです。そして、冷静にこう結論づけてしまいます。“それはできない、無理である。だから、主にささげていく、主に従っていくということは、何と難しいことであろうか”と。

ここで「すべて」「全部」と言われているのは、物質としての財産すべてを差し出すことを意味するものではありません。鍵となるのは、「生活費」と訳された言葉です。これは本来、人生や生涯、あるいは日々の生活をもあらわす言葉です。つまり貧しかったやもめは、最小貨幣2枚をもって自分の人生すべてを、自分自身を神にささげたのだと主イエスは弟子たちにそう教えておられるのです。

私たちに与えられた人生は限られたものであり、人類の歴史から見れば、つかの間の乏しい時間と言えるのかも知れません。また、私たちはみな完全ではなく、神の御前に欠けをもった乏しい存在です。だからこそ、この限りある乏しい人生の中に、また私たち自身の乏しさの中に、神は有形無形の恵みの賜物を日々豊かに与えてくださるのです。

この歩みの出発点に、日曜日の礼拝があります。神の御前に乏しい私たちが恵みの賜物を日々与えられている幸いを、貴い賜物としての御言葉から教えられ、感謝をもって自分自身をささげて生きることを神に約束する時、それが私たちのささげる礼拝であり、礼拝の中でささげる献金はその証しにほかなりません。私たちのために、世界の救いのために、2千年前、御子イエス・キリストは十字架によって御自身をささげてくださいました。それゆえ、乏しい中から自分自身をささげて生きる人生が、今ここに集う私たちに与えられているのです。

キリストの恵みを与えられて生きる私たちは今、何をどのようにささげることができるでしょうか。考えてみれば、私たちには毎日、いろいろな気づきや驚き、感動が与えられています。たとえば、こんな事があるかも知れません。—今日の朝食がとてもおいしかったのは、ふだん何気なく食べていたある食材のゆえであったことを知り、この食材についてもっと調べてみようと思ったのがきっかけで料理研究家になった。そして、神が与えてくださった命を支える食物の恵みについての研究が自身のライフワークとなった—。乏しい中から神にささげて生きる人生を、日々の御言葉と祈りの中に、主なる神は必ず示し与えてくださいます。

命をはじめ与えられているすべての賜物を感謝し、その賜物をもって主を賛美し、主を証ししていく日々でありたいと願っています。有り余る中からではなく、乏しい中からささげて生きる、そのような主の豊かさに満ちた人生へと導かれるよう共に祈りましょう。